

「この子を救う。未来を救う。」キャンペーン

クリスマスまでに、3000人のチャイルド・スポンサーを募集しています！

ワールド・ビジョン・ジャパンは、11/1（木）～12/28（金）まで、厳しい環境に生きる世界の子どもたちに支援を届けるため、「この子を救う。未来を救う。」クリスマスキャンペーンを行います。このキャンペーンでは、3000人のチャイルド・スポンサーを募集します。

世界の子どもたちが生きる厳しい環境

今も、世界の5人に1人が1日150円未満で生活しています。1億6795万人の子どもが児童労働を強いられています。5700万人の子どもに教育の機会がありません。毎日約1000人の子どもが、水が原因で命を落としています。年間590万人の子どもが5歳になれずに命を落としています。このような子どもたちの未来を変えるために、いろいろな方法でこのキャンペーンにご参加いただけます。



今、あなたにできることがあります

1 チャイルド・スポンサーシップにご参加ください

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、クリスマスまでに3000人のチャイルド・スポンサーを募集しています。もう一人分のご支援を追加して下さる方、また、新しくチャイルド・スポンサーになって下さる方のご連絡をお待ちしています。

詳しくは

3 SNSで拡散・シェアする

世界の子どもたちを救うために、子どもたちが今必要としていることをお伝えしているワールド・ビジョン・ジャパン公式SNSアカウントをフォローして、投稿を拡散・シェアしてください！

LINE@ @worldvision **f FACEBOOK** worldvisionjapan **Twitter** WorldVisionJPN **Instagram** worldvisionjapan

2 募金する

世界には、長く続く紛争や干ばつなどで、十分な食べ物がない子どもがいます。小さな命を守り、成長期に必要な栄養のある食べ物を届けるために、クリスマス募金にご協力ください。



詳しくは

4 お友だちに紹介して応援

お友だちが新たにチャイルド・スポンサーシップにご参加されると、お友だちとあなた、それぞれに「WVJ ピンバッジ」をプレゼント！お友だちにチャイルド・スポンサーシップを紹介して、支援の輪を広げてみませんか？



詳しくは



チャイルド・スポンサーシップ、
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み **0120-465-009**

WEB からの申込み

World Vision News No.192 2018年11月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351(平日9:30～17:00) FAX 03-5334-5359

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際NGOです

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News No.192

この子を救う。未来を救う。クリスマスまでに、あと3000人の子どもを救いたい

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News

子どもたちの夢が
消えてしまう前に

この子を救う。未来を救う。
クリスマスまでに、
あと3000人の子どもを救いたい
ミャンマーの子どもたちに迫る現実

未来ドラフト2018

192

2018年11月
ワールド・ビジョンニュース

この子を救う。未来を救う。 クリスマスまでに、 あと3000人の子どもを救いたい

厳しい貧困の中で
今を生きのびるために
大好きだった学校をやめてしまう子どもたち
生活費を稼ぐために働く子どもたち

彼らは声を揃えて言う
「本当は、学校が大好きだった」
「本当は、こんな夢を持っていた」

子どもたちの夢が消えてしまう前に
この子を救う。未来を救う。



キンちゃんのストーリーを
動画でご覧ください

キンちゃん(10歳)



体より大きなリアカーを押すキンちゃん（10歳）生きのびるため、一日中売れるゴミを拾い集める

ミャンマーの子どもたちに迫る現実



インドシナ半島の西端に位置するミャンマー。2016年にアウン・サン・スー・チー氏率いる政権誕生以来、高い水準で経済成長を続ける一方、電気も水道も通っていない集落も未だ多く残り、およそ130万人（約10人に1人）の子どもが学校に行けず働かざるをえない状況に置かれている

キンちゃんの日常

キンちゃん（10歳）は小さく痩せた体でリヤカーを押し、道端に落ちているゴミを拾って生活しています。雨季、この地域は一日中雨が降り続きます。雨からキンちゃんを守るものは帽子一つ。裸足で、暗くなるまで仕事を続けます。ゴミが集まらないと、その日の食事はありません。



毎日暗くなるまで裸足で歩くキンちゃん親子。雨季、雨から守るものは帽子だけ



お金がなくごはんが食べられない日もある。キンちゃんの体は10歳に見えないほど小さく細い

ミンくんの日常

ミンくん（11歳）、夜中まで営業している屋台が立ち並ぶ一角が彼の仕事場です。お昼過ぎに仕込みをはじめ、休むことなく深夜まで12時間労働。オーナーに叱られることも、酔っぱらいに絡まれることもあります。一生懸命働いても家族の食費と家賃には足りません。ミンくんの弟は生まれた時から耳が聞こえない障害を持っています。この地域では栄養が足りず、体に障害を持ってしまう子どもが多いといひます。ミンくんの体も、栄養が足りず痩せ細っています。



家族の生活費を稼ぐため、夜中まで屋台で働くミンくん（11歳）



スラムに建つ小さな家に8人で住む



病気がちのおばあちゃんも手伝いさんとして働くが家族が食べていくには足りない



将来の夢は「医者になっておばあちゃんの病気を治したい」

「この子を救う」ことから始まったチャイルド・スポンサーシップ



ワールド・ビジョン創設者ボブ・ピアス

チャイルド・スポンサーシップは、ワールド・ビジョンの創始者、ボブ・ピアスが、第2次世界大戦後、混乱が残る中国で、貧困で今日を生き延びることもままならない1人の女の子に出会い、「この子」を救おう、と施設に月々の送金を約束して女の子を託したことから始まりました。

一人で“何もかも”はできません。
でも、誰かが「この子」を救おうと
“何か”を始めることから、
「未来」は変わっていきます。
ご支援くださる一人ひとりの力が集まって、
今この瞬間も、「未来」は変えられています。

ワールド・ビジョン・ジャパンは、さらに多くの子どもたちを救うため、「この子を救う。未来を救う。」キャンペーンをクリスマスまで行います。詳しくは本誌の裏表紙(p.12)をご覧くださいの上、応援をどうぞよろしくお願いいたします！

今、世界では…

1.9
未満
/DAY

世界の8人に1人が極度の貧困下（1日1.90ドル未満）で生活しています

151,000,000

約1億 5100万人の子どもが児童労働を強いられています

61,000,000

6100万人の子どもが小学校に通えていません

800
/DAY

毎日約800人の子どもが、下痢性疾患で命を落としています

5,600,000
/YEAR

年間560万人の子どもが5歳になれずに命を落としています

未来ドラフト 2018

わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション

「若者のアイデアで、未来を救う」



決勝大会後の懇親会にて

SKETCH THE FUTURE 未来ドラフト 2018

「未来ドラフト 2018」概要

アイデア募集期間：2018年 6月20日～8月3日

決勝大会：2018年 9月2日

課題テーマ：「難民居住地に住む子どもたちがたがいの違いを乗り越えて一緒に楽しめるアイデアを考えてください」

グランプリ〈H.I.S.賞〉：賞金10万円＋難民居住地に訪問してアイデア実現

準グランプリ〈ムラサキスポーツ賞〉：賞金5万円

「難民を助きたい！」熱い想いをアイデアにのせた夏
～全国の高校生・大学生から210件のアイデアが届く～



ビディビディ難民居住地に駐在している大井スタッフが、「未来ドラフト」や決勝大会進出アイデアについて話している様子

「未来ドラフト」とは、若い世代が難民問題に関心を寄せるきっかけになることを願い企画したアイデア・コンペです。舞台は、多くの南スーダン難民が生活するウガンダのビディビディ難民居住地。ここに住む子どもたち・人々の中にある民族間・国籍間の対立や軋轢を緩和し、平和な未来をつくるためのアイデアを募集したところ、全国の若者から 210 件のアイデアが寄せられました。子ども時代に親を亡くした経験を持つ学生、途上国で「お金がない自分は無力」と絶望したけど「アイデアの寄付」があると気付き応募した学生など、様々な背景を持つ若者が難民問題に真剣に向き合ってくれました。1つひとつのアイデアに、深く、強く、優しい想いが込められていました。

一次審査を突破した8アイデアが進出した決勝大会には、
112名の若者が観覧・応援！

2018年9月2日、グランプリ賞が決定する決勝大会が開かれ、決勝大会進出者(以下、ファイナリスト)のアイデア発表の観覧と応援に、高校生・大学生を中心に 112 名が駆け付けました。ファイナリストによる難民の子どもたちへの強く、深く、そして優しい想いが込められたアイデアをそれぞれ独創的・画期的な方法で発表し、会場を沸かせました。



グランプリ〈H.I.S.賞〉
「BidiBidi Caravan on the Move!」
by ビディビディキャラバン



特別賞
「南スーダンとウガンダをつなぐ果実と花の溢れるピースパーク」
by 果実×花ぶろじゅくと



準グランプリ〈ムラサキスポーツ賞〉
「『着る』から『生きる』へプロジェクト
～そこで始まるファッションショー～」
by 田村なみちえ



オーディエンス賞
「『着る』から『生きる』へプロジェクト
～そこで始まるファッションショー～」
by 田村なみちえ

全国から届いた
「アイデアに
込めた想い」

今は金銭的に貢献できなくても、私が持つすべての知識を振り絞って考えたアイデアで、少しでも平和創出に貢献したい (19歳、沖縄)

お互いのことを完全に好きになれなくとも、争いを避けて共存することは可能だと思います。心の傷から少しでも解放され、楽しい時間を過ごして欲しいです (25歳、東京)

私たちが不自由なく生活をしているのに、水も飲めない国や命の危険がある国があるの、と常に疑問を持っていた。培ってきた建築の知識で、希望を持ってもらえたらと思った (22歳、大阪)

私はどうしたら難民を助けられるか毎日考えています。食糧や医療も大事ですが、次世代を担う若者支援は決して忘れてはいけないと思いました (17歳、福島)



グランプリ受賞チーム「ビディビディキャラバン」より一言

「ワクワクするアイデアを詰め込み難民居住地を駆け回るビディビディキャラバン。子どもたちの主体性と持続的な平和構築を大切にしたいこのアイデアを実現すべく、クラウドファンディングを通して一人でも多くの方と一緒にキャラバンを創り上げたいと願っています！難民居住地の子どもたちに、みんなで夢と希望を届けませんか？」



クラウドファンディング実施中！
応援よろしくおねがいします





キルヤンガ ADP にてチャイルドとチャイルド・スポンサーの集合写真

ウガンダの支援と暮らし

ワールド・ビジョン・ジャパンがチャイルド・スポンサーシップを通じて支援を届けている 21 カ国 46 の地域の中から、今回はウガンダの2つの支援地域をご紹介します。チャイルド・スポンサーの「地球あちこちウガンダを知る旅」（支援地訪問ツアー）が、2018 年 7 月 28 日（土）～ 8 月 5 日（日）に実施されました。21 人のチャイルド・スポンサーが、キルヤンガ地域開発プログラム（以下キルヤンガ ADP）とナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム（以下ナラウェヨ・キシータ ADP）を訪問し、チャイルドと対面しました。その報告をお届けします。

チャイルドと対面！

どちらの地域でもチャイルドと家族が待っていてくれました。同じ支援地域内でも、チャイルドはそれぞれ異なる言葉話すため、現地スタッフや住民ボランティアによる通訳のサポートを受けつつ、チャイルドや家族と交流する楽しいひとときを過ごしました。



手紙に「サッカーが好き」と書いていたチャイルドに実際に会って将来の夢を聞いてみると「Carpenter」（大工）！チャイルド・スポンサーからは地元の北海道柄のTシャツが贈られました（ナラウェヨ・キシータ ADP）



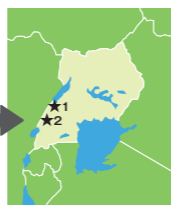
一緒にランチ。メニューはじゃがいも、さつまいも、マトケ（調理用バナナ。ウガンダの主食）、チキンなど（キルヤンガ ADP）



チャイルドは服飾の職業訓練コースに通っている学生です。チャイルド・スポンサーに手作りのワンピースをプレゼントしてくれました（キルヤンガ ADP）



チャイルドと家族からチャイルド・スポンサーへのお礼の品は、自分たちで大切に育てた鶏や卵、パイナップル、バナナ、かぼちゃ、豆などの農作物でした。支援への感謝の気持ちを、これらの大切な財産だけでなく、歌や踊りでも表現してくれました



1 ナラウェヨ・キシータ ADP
2 キルヤンガ ADP

ウガンダ 基本 DATA
正式名：ウガンダ共和国
首都：カンバラ
面積：24.1万 km²
人口：4,286 万人
宗教：キリスト教、伝統宗教、イスラム教
（出典：外務省）

キルヤンガADP

生計向上支援の視察

生計向上支援の一環として、貯蓄グループの活動を行っています。貯蓄グループのメンバーは定期的に少額を積み立て、必要な時は貯蓄グループからローンを借りることができます。そして1年ごとに、借入金を返済したうえで、個人貯金の残高が利子つきでメンバーの手元に戻ってくるという仕組みです。メンバーが立ち上がり、「この支援によって家を新しく建てることができた」「子どもの学費が出せるようになった」と、自信に満ちた表情で経験を話してくれました。訪問した貯蓄グループは現在、行政機関の登録を受けた村の銀行を設立中です。住民たちから、「銀行が出来るのが待ち遠しい」という力強い声を聞くことができました。



立ち上がって自分の経験を伝えるメンバーの女性

ナラウェヨ・キシータ ADP

教育支援の視察

小学校では、環境保護クラブのメンバーたちが迎えてくれました。「あなたと一緒にいられて嬉しい」という歓迎の歌とともに、「Education ladder（教育のはしご）をのぼるんだ」という教育の大切さを訴える歌、「土壌、空気、水を守ろう」という環境保護の歌を、力強く、楽しそうに披露してくれました。そして、クラブが活動の一環として行っている、学校の菜園でのペットボトルのリサイクル方法を見せてくれました。道



歓迎の歌を披露してくれた環境保護クラブのメンバーたち

端に捨てられることの多いペットボトルを、学校菜園の水やりに使っています。プラスチックが土に還らないことを生徒たちは知っていて、少しでも活用しようとしています。

訪問したチャイルド・スポンサーの方々の感想

小学校での平和構築活動と貯蓄グループの活動報告が一番印象に残っています。男女差別や親の存在が絶対という印象がありましたが、その中で学校に通わせてほしいと訴える歌やダンスを踊ったりしてくれて、それを大人たちも受け止めてくれるように住民の意識を変えていくのは大変難しいことだと思うのに、働きかけて根付かせている様子に感動しました。「お腹いっぱい食べる」という夢が、「パイロットになる」という夢に変わったという子の話もとても心に残っています。子どもも大人も夢を語る表情がとても輝いていて素敵でした。

今回の面会時、とびきりの笑顔で私に向かって走って来てくれたマリーちゃん（チャイルド）を見て、「この笑顔が見たかったのだ」と、心から嬉しく思いました。ずっと会いたいと思っていたことが実現できたことを、心より感謝しています。

ナラウェヨ・キシータADP

生計向上支援の視察

支援地域の多くの人々が、農業に従事しています。主な作物はバナナ、豆、キャッサバ、さつまいも、じゃがいもなどです。支援により、農業生産組合に可動式の散水機（ウォータースプリングラー）が提供されました。近くの水場からホースをつなげ、移動しながら広範囲に水を撒くことが可能です。水の少ない乾期にも作物を育てることができるようになり、収穫量の増加につながりました。



どこまでも続くバナナ畑を歩いた先に散水機がありました



農家の方々からいただいたおやつ。さつまいも、ゆで卵、生ピーナッツ豆。素朴な味でとても美味しかったです

チャイルドが話す言葉

どちらの支援地域でも、異なる言語・文化を持つ複数の部族が共存しており、「こんにちは」だけでも様々な言い方があります。チャイルドたちは、とても多様な環境で暮らしているんですね。

言語	「こんにちは」の言い方
Rukiga	ルキガ語 Agandi（アガンディ）
Nyankole	ニャンコーレ語 Nogamnaki（ノガムナキ）
Lufumbira	ルフンビラ語 Bite（ビテ）
Runyoro	ルンヨロ語 朝：Osibire ota（オスビレオタ） 夕：Orire ota（オリレオタ）
Ruwanda	ルワンダ語 Muraho（ムラホ）
Lunyarwanda	ルニャルワンダ語

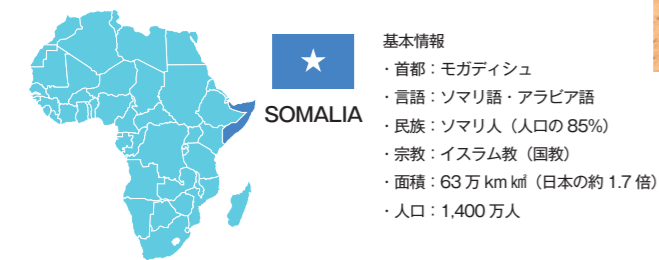
コラム

ナラウェヨ・キシータ ADP 事務所のトイレに立ち寄った際にあったのが、この手洗い場。タンクを傾けると、赤いキャップの下に小さな穴が開いており、穴から水が出る仕組みになっています。タンクをつかまなくても、足元にある木を踏めば紐でつながったタンクが傾くので、手を汚さずに手洗いができます。便利です！



緊急人道支援の現場から

世界各地で終わりの見えない紛争や、気候変動の影響による自然災害が頻発しています。ワールド・ビジョンは、こうした危機においてもっとも弱い立場に置かれている子どもたちのため、緊急人道支援を行っています。今回は、いま支援を実施している国の一つ、ソマリア連邦共和国についてご紹介します。



数字で知る、ソマリアの子どもたちと日本の子どもたち

	ソマリア	日本
1歳になる前に亡くなってしまう子ども ^{※1}	83/1000	2.04/1000
5歳になる前に亡くなってしまう子ども ^{※1}	125/1000	2.85/1000
学校に行けない子ども（初等教育就学率より）	68/100 ^{※2}	0/100 ^{※3}
勧誘されて、武装グループに加わる子ども	1585/年 ^{※2}	0/年

※1 ユニセフ子供白書 2017 年：乳児死亡率（1歳未満）、5歳未満児死亡率
※2 UNICEF Somalia Annual Report 2017
※3 ユニセフ子供白書 2017 年：初等教育純就学率（%）日本 100%

単位：人



ワルサさんと子どもたち

2017年の干ばつの影響により、家計の収入源となる家畜のヤギを失ったワルサさんは、子どもたちを養うために、食糧支援に頼らざるをえません。食べ物が手に入ると、同じように食べ物に困っている隣人と分け合って日々をしのいでいます。



干ばつにより被害を受けた家畜

2017年の干ばつは、ソマリアの人々の生活に深刻な影響をもたらしています。2018年6月末時点で、人口の約20%にあたる260万人のソマリアの人々が、干ばつや紛争の影響により避難を強いられています。

ソマリア連邦共和国（以下、ソマリア）は、「アフリカの角」と呼ばれる東アフリカの一角に位置し、1960年にイギリスとイタリアから独立した国です。独立後も部族抗争が止まず、不安定な情勢が続くなか、1991年、当時のバレ大統領が追放され、内戦状態に突入しました。1992年には、平和維持活動（PKO）のため多国籍軍が派遣されますが、3年後ソマリア民兵との激しい戦闘により撤退し、ソマリア国内の争いが泥沼化しました。

さらに、2011年には東アフリカで大干ばつが発生し、ソマリアからも多くの人々が、隣国ケニアやイエメンに難民として流出しました。1960年の独立以降争いが絶えず、国の体制や経済は崩壊状態で、2000年ごろからはソマリア沖で海賊行為が頻発するなど、ソマリアは世界最貧国のひとつです。紛争に加えて、近年は大規模な干ばつと食糧不足が負の連鎖を生み、支援を必要としている人々は、現在540万人にも達しています。

ソマリアのスタッフからのメッセージ



ワールド・ビジョン・ソマリア
食糧支援マネージャー

フィリップ・ンデケイ

ソマリアでは人口の約40%にあたる540万人の人々、特に栄養不良のリスクにさらされている280万人の子どもたちが、まさに今、支援を必要としています。ある28歳の母親は、「干ばつが続く中で夫が怪我をして、今6人の子どもを養うことが本当に厳しいです。ほかの家では1日3食食べていても、私たち家族は1食を食べることすら難しいのです」と語っています。ソマリアの子どもたちの未来を明るくできるよう、日本の皆さまにもぜひご支援に参加いただけたら幸いです。

ソマリアでの食糧支援にご協力ください！

ワールド・ビジョン クリスマス募金



WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい！」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています（参加費無料）。支援地域の子どもたちの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページ、Eメール、お電話にてお申込みください。（締め切りは開催日の3日前です）



お引越しされていませんか？ ご連絡お待ちしています！

チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、そして寄付金控除等に必要な領収証、どれも世界に一通しかない大切な郵送物です。確実にお手元にお届けできるよう、お引越しされた方やこれからお引越しの予定がある方はワールド・ビジョン・ジャパンまでご連絡ください。2018年領収証のお届け先は、12月21日までにご連絡いただいたご住所になります。

マイ ワールド・ビジョンから 簡単にご変更いただけます。

ログイン後、「登録情報の確認、変更」よりお手続きください。



住所変更は
お電話・FAX・メールでも
ご連絡いただけます！



https://www.worldvision.jp/mywv/account_signin/



2018年の領収証は2019年1月18日に 発送予定です

2018年1月1日から2018年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を2019年1月18日に皆さまへ発送予定です。

クレジットカードによる寄付は VISA、MASTERCARD、セゾンカードの場合は2018年11月までの寄付が、JCB、AMEX、ダイナースクラブの場合は2018年10月までの寄付が対象となります。また、コンビニエンスストアをご利用の場合で、2018年領収証の領収金額に寄付を含めることをご希望の場合は、2018年12月10日までにお願いします。

当団体は東京都より「認定NPO法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大40%が控除されます。（年末調整では寄付金控除等を受けることはできません。）

領収証が届きましたら、確定申告まで大切に保管してください。



世界に思いをはせて Vol.4 事務局長 木内 真理子

昨年度は30年をふり振り返り、感謝に溢れた一年でした。同時に、「継承」し「挑戦」し続けることの大切さと難しさをあらためて感じた節目の時でもありました。社会が変わり、世界の子子どもたちが直面する問題も変わる中、私たちもこれまでの成功体験にとらわれず、より成果の出る支援のあり方を

考え、変化を恐れず挑戦していかなければなりません。一方で、これからも変えずにしっかり継承していくこともあります。私たちのスピリットー「“何もかも”はできなくとも、“何か”はきっとできる」もそのひとつです。31年目の今年も、どうぞよろしく願いいたします。